

令和8年度第2回大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事概要

日時：8月6日（木）午前9時～10時5分

場所：大野市役所 2階 大会議室

- ◆出席者 岡崎会長、竹田副会長、猪嶋委員、熊川委員、上田委員、川田委員、林委員、櫻川委員、向村委員、石田委員、保格委員、嶋田委員、清水委員、松田委員、伊藤委員、山川委員、前川委員、羽根田委員、齋藤委員、三屋委員
事務局 加藤行政経営部長、小林政策推進課長、政策推進課員（廣作、雨山）
前田総務課長、早川課長補佐
- ◆欠席者 藤堂委員、坂本委員、澤田委員

◆次 第

1 開会

2 会長あいさつ

第1回推進会議の後、委員の皆様には外部評価に協力いただき感謝する。本日の議事の1点目は、令和7年度施策評価報告書案について、事務局がとりまとめたので意見をいただきたい。2点目は、行政改革推進プランの総括について市の報告を受ける。忌憚のないご意見と会議の円滑な進行にご協力いただきたい。

3 議事

（1）第六次大野市総合計画評価報告書案について

概 要： 資料1，2に基づき事務局説明

総合評価の求め方については、例えば項目2「学び」では、5人の委員に評価いただき、1人がA評価、3人がB評価、1人がC評価となっている。このA～Cを点数化して合計した結果が外部評価の点数であり、ここでは62.5点となる。さらに総合評価に向けては、内部評価も点数化（内部評価はBで62.5点）し、内部評価と外部評価の平均点を算出、総合評価をBとしている。結果論として、総合評価と内部評価は同じとなっている。なお、外部評価においてA，B，Cで評価が分かれた「2 学び」、「9 観光業」、「10 働く環境」などについては、最後に、施策評価アドバイザーの桑原教授に確認と助言を、岡崎会長に確認をいただきまとめている。施策評価報告書は、最終的に市で決定し、例年同様、9月初旬に市ホームページで公開する予定である。

岡崎会長 委員それぞれに担当分野を評価いただき、最終的に委員全員の評価をまと

めて割り算する形とせざるを得なかった。個々の評価とやや異なる結論になった項目もあると思うが、そうした点も含め、質問・意見・疑問点があれば発言いただきたい。

質 疑：

委 員 令和7年度の施策評価案は了承した。その上で、文化会館が閉館となり、代替施設として学びの里「めいりん」がある。これからの大野市の文化振興を考えると、やはり文化の拠点が必要となる。そうした観点から、学びの里「めいりん」、あるいは有終西小学校も含めた大規模改修について、早急に議論を進めていただき、早期に文化の拠点が確立されるよう、今後の問題としてお願いしたい。

事務局 各委員からの意見として、「文化活動の拠点となる学びの里「めいりん」の改修を、利用者の意見を聞いた上で早急に実施していただきたい」とある。いただいた意見は、担当課に共有しており、進めていきたい。

委 員 外部評価と内部評価の点数が異なる点について、例えば「10 働く環境」などは乖離が大きい。外部評価は市民の感覚、内部評価は行政の感覚でつけられていると認識。乖離している項目については、お互いの認識が少しずつ傾向があるかもしれない。今後、外部評価の点数や委員の意見の内容を確認して、これからの施策に反映していったほしい。

事務局 外部評価では、プラスに評価いただいた部分と、改善すべき部分の両方についてコメントをいただいている。意見をしっかり受け止めて施策を進めていきたい。

岡崎会長 外部評価でいただいた意見は各部署に伝えていただき、後期基本計画に生かしてほしい。

委 員 令和7年度の施策評価は十分にされていると感じる。場違いかもしれないが、私の情報では、ある医院が閉院するという情報を得ている。令和8年度以降の行政側の対応について教えてほしい。

事務局 この場でお答えできる情報はないため、改めさせてほしい。一方、意見として「1 子育て」などでも医療機関に関して類似の意見をいただいている。市民の皆様と力を合わせて改善していきたい。

岡崎会長 令和7年度施策評価報告書案について、推進会議として承認いただけるか。

結 果： 承認（挙手多数）

（２）大野市行政改革推進プラン 2021 の総括について

概 要： 資料3～6に基づき事務局説明

行政改革推進プランは、第六次大野市総合計画における行政経営分野の個別計画として令和3年に策定したもの。行政運営の側面から必要な改革を計画する役割を担い、プランの計画期間が終了したことから、取組の実績・達成状況、成果や課題、今後の方向性などを総括としてとりまとめた。プランは、4つの方針の下、計36の取組を設け進捗管理をしている。

資料４において全体総括をまとめており、大野市における行政改革の枠組みを、単なる経費削減や業務効率化を目的とするものではなく、限られた人材や財源を有効に活用しながら、市民サービスの維持・向上を図るために継続して取り組んできた、とまとめている。

そして、今後については、本プランで整備した基盤や成果を次の行政運営に生かし、限られた経営資源の中で最大の成果を創出し、市民サービスの向上と持続可能な自治体経営の両立を図っていくこととしている。

行政改革推進プランは終了するものの、これら取組は、総合計画や個別計画、各課の取組の中で引き続き進められる。今後の方針をこのように定め、引き続き行政改革を進めていく。

岡崎会長 整理すると、総合計画の進捗管理とは別に行政改革推進プランがあり、中身はほぼ同じであり総務課が所管している。プランは終了するものの、一部はこれから推進会議で扱う総合計画に引き継がれていく、という趣旨と理解した。

質 疑：

委 員 施策評価報告書と行政改革推進プランの総括は、どちらも市ホームページで公開されるのか。

事務局 公開する。

委 員 そうであれば細かい点であるが、同じ指標で目標値が、総合計画は９地区、行政改革推進プランは７地区となっている。数値の違いに意味があるのか、事務局の考えを教えてほしい。

事務局 おっしゃる通り総合計画の目標値と異なる点について、担当課に確認し、調整したい。

岡崎会長 ２つの部署で似たことをやっている点について事務局に申し上げており、報告する以上は、違いなど説明が求められてくる。各委員においても今後気になる点や気づく点が出てくるように思う。場合によっては事務局に再度意見聴取した方がよいこともあると考えるが、意見等の締め切りはいつになるか。

事務局 ８月中に意見があればいただきたい。

岡崎会長 窓口を事務局（政策推進課）とし、何か気付いた点があれば連絡いただきたい。本日は報告であり、何かを決定する場ではないため、そのように扱ってよろしいか。⇒承認

３ その他

なし

閉会（竹田副会長）

暑い中、多忙の中集まっていただき感謝する。総合計画の評価報告書について慎重

な意見を賜り、非常にうれしく思う。意見が分かれたというコメントもあったが、それは委員がよく見て、大野のことを思って意見を述べた結果であると考え。もう一つの行政改革推進プランについて、最後の総括の中に非常に重要な点が述べられている。行政の市民サービスを維持し、行政の仕組みをサステナブルな状況に持っていくことが極めて重要である。その際、私が思うのは、これまでの整備だけでなくソフト面の重要性が一段と増していること、そしてD XやA I 関係、さらにエビデンスに基づいたポリシー設定が重要であることである。

そういう意味では、行政の中により専門性の高い部局を設け、例えばD Xについては各所と連携して進めることが今後重要になる。そうした点も視野に入れ、組織改革を長期的に見据えて対応いただけると非常によいと思う。

最後に、短時間の中で多くの資料を見ていただいた委員の皆様に感謝を伝え、閉会の挨拶とする。

◆会議資料

次第

大野市総合計画・総合戦略推進会議委員名簿

資料1：令和7年度施策 評価結果（案）一覧

資料2：第六次大野市総合計画評価報告書（令和7年度施策）案

資料3：行政改革推進プラン本体別冊総括

資料4：行政改革推進プラン全体総括

資料5：行政改革推進プラン総括説明

資料6：行政改革推進プラン達成状況